

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	千葉市桜木園 放課後等デイサービス		
○保護者評価実施期間	R7年 4月 1日		～ R8年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 5名
○従業者評価実施期間	R7年 4月 1日		～ R8年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数) 13名
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 3月 26日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医療的ケア、食事や排泄などの身体介護、ポジショニング等、ニーズを把握し、適切な支援を行う。	計画内容について職員間で事前に共有し、ニーズに沿った支援を実施している。	家族の状況に合わせて、臨時的なニーズが出た場合に、柔軟な対応ができる。また職員間で共有し、不定期利用でも安心して、利用ごとに同じ支援が行えるよう努めている。
2	利用者が家庭や学校、他施設等、普段の生活リズムを維持でき、安心して過ごせるような支援を行う。	不定期利用であることもあり、家族から在宅での生活や学校での様子の聞き取りを丁寧に行い、家族、本人が安心できる関わり方や環境を提供している。 利用中の様子を連絡帳等で具体的に報告し、保護者にも安心して利用していただけるようにしている。	他事業所、相談支援事業所との情報共有をさらに深める。
3	利用者、職員とかかわりを持ちながら活動に参加できる。	ひとりひとりの持てる力を発揮できる内容と、個々の関心に沿った内容設定や、家庭の中では実施できないような体を使った活動や経験の幅を増やしていけるような活動を心がけている。	個々の発達を意識した活動プログラムの見直し支援の方針、目標について職員間で意見を出し合い、共有していく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動スペースの確保	定員に対しての室内環境が狭い	活動場所の工夫や、来園する利用者に合わせて配置等変えている。
2	社会体験の実施	利用児が不定期利用であること、短期入所と併用されている場合等を考慮し、生活介護の成人利用者とともに活動に参加し、一日を過ごすこと自体を体験の場としてとらえている。	利用保護者のニーズも踏まえて考えていく必要がある。 短期入所を定期的に利用している利用児については、積極的に制作や演奏会等の地域のボランティアとの交流への参加の機会を儲けていく。
3	短期入所中に通園を併用する利用児もいるため、保護者は活動の様子を参観することが難しく、評価票の結果からも、情報伝達が不十分であると感じた。また放課後等デイサービス以外の利用時についても、不定期利用のため、災害対策やその他の安全対策等の周知方法の検討が必要。	利用前の見学や説明、面談では、丁寧にわかりやすい伝達を心掛け保護者にお伝えすることを意識しているが、短期入所中のご利用では特に土日に入所される場合等、保護者と直接お会いする機会が少なくなってしまう。 また、利用児が普段、通常利用されている他事業所の放課後等デイサービスと比べると利用頻度が不定期となるため、現状の伝達方法のみでは、いろいろな情報の周知が進みづらいと思われる。	日中活動でのお子さんの様子や活動内容については、引き続き、連絡帳にてお知らせしていく。年度初めに配付する「通園のしおり」にて園についての情報をお伝えするとともに、今後は、アプリやお便りを作成配付し、園での様子や取組について、よりわかりやすく保護者の皆様にお伝えしていく。